

# 値上げの春

## 食品・電気…年金は減

4月から暮らしていくかかわる商品やサービスの価格や制度が見直される。幅広い

食料や電気料金などが値上げとなる一方、年金額は引き下げられる。家計への影

響も出てきそうだ。明治や雪印メグミルクは4月1日、チーズの希望小

売価格を4・3〜10%引き上げる。両社とも約4年ぶりの値上げ。コロナ禍から

### 4月から暮らしていく変わる



- チーズ値上げ**  
明治や雪印メグミルク、希望小売価格を4.3〜10%
- 食用油値上げ**  
日清オイリオグループやJ-オイルミルズ、サラダ油などを1ℓあたり40円以上
- 輸入小麦価格引き上げ**  
政府、製粉業者への売り渡し価格を平均約17%
- 電気・ガス料金値上げ**  
大手電力10社のうち7社、都市ガス大手4社のすべてが前月より値上げ
- 使い捨てプラスチックの削減**  
コンビニやスーパーのフォークなど、使い捨てプラスチックの削減義務化。一部で有料化も
- 不妊治療に公的医療保険**  
体外受精などの不妊治療も保険が使えるように。繰り返し使える「リフィル処方箋(せん)」  
医師の判断で1枚の処方箋を最大3回まで再利用
- 年金額が0.4%減**  
国民年金の月額額は259円減って6万4816円(1人分満額)。厚生年金は903円減って21万9593円(モデル世帯2人分)
- 育児取得の個別確認を義務化**  
妊娠や出産を申し出た従業員に育児休業の取得意向を確認するよう事業主に義務化
- 成人年齢を20歳から18歳に**  
保護者の同意なく携帯電話の契約などが可能に

経済の再開が進んだことで飲食店を中心にチーズの需要が増え、輸入原料の価格は上がった。  
昨年来の値上げが続く食用油は4月1日以降、さらに高くなる。日清オイリオグループとJ-オイルミルズは、食用油の価格を1ℓあたり40円以上引き上げた。原料の大豆や菜種はバイオ燃料向けの需要が伸びる一方、天候不順などで海外産地が不作。今年4月は1年前と比べて1.7〜1.70円以上、上がる計算だ。トマトケチャップ(カゴメ)やピルトカレー(大塚食品)の価格も上がる。各社にとっては、原油高に伴う物流コストや包材費の

上昇も重荷だ。  
ロシアによるウクライナ侵攻で、両国で世界の輸出の3割を占める小麦の相場価格も跳ね上がった。政府は4月、小麦を製粉業者へ売り渡す価格を平均約17%引き上げる。小麦はパンやうどん、インスタントラーメンなどに使われる。  
一方、高齢者に支払われる国の年金額は、4月から0.4%下がる。重要な原資となる年金保険料を支払う現役世代の賃金が、コロナ禍の影響などをうけて減ったためだ。また、公的年金を受け取り始める年齢が現在の「60〜70歳」から広がり、「60〜75歳」の中で

成人年齢も変わる。4月から20歳から18歳に引き下げられる。18歳でも、親の同意を得ずに携帯電話を契約するといったことができるようになる。未成年者の

場合、親の同意を得ずに結んだ契約を取り消すことができる。未成年者取り消し権が認められるが、4月から18歳以上はこの対象外になる。(山下裕太、渡辺悠)